

岐阜県立吉城高等学校

学校長 鈴木 健

学校住所 飛騨市古川町上気多 1987-2 電話 0577-73-4555

- 1 会議の名称 岐阜県立吉城高等学校評議員会（第1回）
*地域連携による活力ある高校づくり推進協議会（第1回）と兼ねる
- 2 会議の構成 評議員 石原 典子 民生委員・主任児童委員
稲葉 佳代 主婦
尾賀 眞平 企業経営者
後藤 洋平 飛騨古川青年会議所理事長
洞 宏樹 卒業生保護者（委員名は五十音順）
学 校 鈴木 健 校長
細江 雅紀 教頭
秋月 正幸 事務長
小原 誠 教務主任
下嶋 和長 生徒指導主事
藤守 学 進路指導主事
小澤 耕 活力ある高校づくりWG長
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援、協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成29年5月31日（水）13:30～16:00 吉城高等学校会議室
評議員5人と学校7人が出席

5 会議の概要

テーマ 吉城高等学校の現状と課題、活性化にむけた今後の取組について

学校の現状説明

学校長（パワーポイントによるプレゼン）

- ・創立の経緯
- ・少子化の進展と定員充足状況
- ・理数科・普通科の現状
- ・平成28年度の取組：飛騨市・東京大学・吉城高校の連携、YCKプロジェクト（地域観光・地域教育・地域福祉・地域防災）とユネスコスクール加盟申請
- ・平成29年度の取組計画：現行学科の課題等
- ・少子化が進展する中でも、幅広い層の生徒の学習ニーズに応えていきたい。

教頭（資料2、3より）

- ・YCKプロジェクトの活動について（A3カラー版）
- ・資料2より 入学者数減は古中・国府中・神岡中の生徒の全体に占める割合が減ったわけではない。
- ・資料3より 進学実績に期待する生徒の割合が高い→進学の旗は降ろさない。
理数科特進コース、普通科コース選択に大半は肯定的。
卒業アンケートの肯定的意見が多い。
・理数科：理数科行事やクラス替えなしは良好。
・普通科：進路の選択幅が広くありがたい。
- ・否定的意見：7限授業が大変だという生徒と、ありがたいという生徒が混在
トイレの洋式化希望、地味、校則厳しい。
→自由度をあげて魅力ある高校でありたい。

意見1

- ・YCKなどで中学と高校の連携が進むなど、良い方向に流れている。古川祭のボランティアなど魅力的な活動が増えた。地域に大切な高校であり、応援団の方々を増やしていただきたい。

意見2

- ・積極的な学校のPRなど、昨年度の評議員会で提言したことが少しずつ定着してきてありがたい。さらに地域の方々のYCKへの認識が高まるといい。理数科＝理系なのか？

学校

- ・毎年、理数科は理系学科だけでなく大学進学クラスとしてのカリキュラムを組み、中学生に広報している。今年度は静岡大学法学部に進学した生徒がいる。

意見3

- ・生徒たちの熱心なYCKプロジェクトに魅力を感じている。古川祭りの日に高校生は授業に参加するため、その3年間は地域と隔離されてしまう。

意見4

- ・吉城高校の地域の評判は良い。ただし、国府の生徒が吉城を選択しなくなっている。もっと保護者に向けての情報発信が必要ではないか。理数科は名称が古臭いのではないか。特進科など保護者にも伝わる名称がよいのではないか。

意見5

- ・理数科は理数のイメージがあり、進学クラスであるとの認識がまだまだ低い。「特進」は吉城の特色として売りになると思う。バス代も安くなったので、もっと神岡から生徒に通ってもらえるのではないか。「小学生サイエンス教室」の案内が神岡小学校には来ていない。古川の小学校だけでなく飛騨市全域に広げてはどうか。

学校

- ・今年はぜひ神岡小にも案内したい。

意見6

- ・進学率が高くなり、若者が外に出るため地域の労働人口が減っている。YCKの活動によって、地域の大人が高校生に夢を与えられるように期待する。地元に戻って就職するようなレベルが敷けると良い。生徒は真面目で良い子たちだが、大人にとって都合のよい子ではなく、のびのびと、企業などとももっと密着しても良いのではないか。

意見7

- ・真面目で良い生徒は、世間に出てだまされてしまう。世間でもまれるような活動を経験させるとうまい。高校生がアルバイトでお金を稼ぐのは良い体験だと思う。大人や地域が見守る中で経験を積みながら、多くの生徒に地域のことを知ってもらえないか。

意見8

- ・少子化が進む中で、吉城高校の志望者が増えることは他校の志望が減ることである。中学生の取り合いはいかがなのか。交通の便が良いところに生徒が進学するのは当然なこと。生徒数が減ることで何か問題はあるか。

学校

- ・生徒の奪い合いではなく、それぞれの高校が魅力ある学校になるよう努力することが、地域全体の教育の質を高めることになると思う。個人の見解だが、学校規模が小さくなることで、部活動の団体種目の活動に支障があるものの、授業などでは一人一人に目が行き届くなど、生徒が少ないことは必ずしも問題ではないと思っている。

意見9

- ・飛騨市は魅力ある都市であり、観光は大切な地域産業。今進めていこうとしているYCK活動、先輩、後輩の関わりを持って、世代を超えて続けて欲しい。中学生への高校説明会は、先生のプレゼンテーションの質で随分イメージが変わるので、上手な先生に説明して欲しい。

意見10

- ・YCK活動のPRは、どこを見て発信しているのか。地域ありきの発想が果たして中学生に伝わるか。飛騨地域の外に出ることで初めて地域の魅力が分かり、飛騨のよさを発信できるのではないか。また、海外の大学のように2年生の先輩が1年生の世話をする「チューター制度」

のようなシステムを取り入れることは可能か。

意見 1 1

- ・地域との繋がりを考え、古川祭を学校の休業日に振り替えてはどうか。また、部活の試合の情報をメールで配信するなどし、先生方も応援に参加していただけると、生徒たちは大変喜ぶ。また、高校説明会では高校生に何を身に付けさせたいのか学校の方向性を話して欲しい。

意見 1 2

- ・吉城高校は何を目指しているのか。もし「単位制」にするのなら、その魅力は何か。インターンシップはどうなのか。YCK の授業での位置づけは可能か。理数科は今のニーズに答えているのか。理数科と普通科の「くくり募集」はできないのか。たくましい人材を育てて欲しい。

学校

- ・理数科の今後の進む方向性やくくり募集については現在検討中。単位制のメリットは、幅広い活動の科目履修認定が可能なことである。
- ・いただいたご意見を整理し、1つ1つ検討したい。先進校視察や調査なども行い、次回（9月）には、学校から改革案を提案したい。現在、H30年度の教育課程の編成を検討しているが、できることは少しでも早くすすめていきたい。

6. まとめ

予定時間を大幅に超え活発な議論がなされた。学校は大変貴重な意見を得た。今回出された課題を掘り下げ、活性化に向けて具体的提案と検討ができるようにしたい。